

コード	名称	区分	コード	名称
事業名 440	健康相談事業(補助金分)	会計	01	一般会計
		款	04	衛生費
		項	01	保健衛生費
基本		目	01	保健衛生総務費
施策	01 10万市民の健康を維持する	細目	240	保健事業
		細々目	52	健康相談事業(補助金分)
行革大綱の重点事項番号		担当者	47 -	1151
担当部課	コード 703000	氏名	眞井 雅子	連絡先 (内線)
	名称 大山田住民福祉課			

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	40歳以上の市民	※対象件数
成果(どうする)	健康に関する相談、血圧測定や検尿、身体測定を実施することにより、自分の健康に関する意識と管理能力を高めることができる。	
根拠法令・要綱等	健康増進法・高齢者の医療の確保に関する法律	
開始年度	平成	年度
終了年度	平成	年度
H22	事業内容	
	①ライトピア健康相談の実施(毎月第①金曜日) ②電話による相談 ③出前講座開催時の健康相談	
社会情勢の変化等		

整備内容(「施設の新設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積(延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の新設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H21	H22	H23	H24
			目標	実績	目標	実績
	ライトピア健康相談の開催回数	回	12	12	12	12

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H21	H22	H23	H24
				目標	実績	目標	実績
	ライトピア健康相談の参加者延べ人数		人	120	59	70	80
	電話・その他の健康相談延べ人数		人			50	80

投入コスト	直接事業費計(A)	H21 決算	H22 決算	H23 当初予算	H24 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
		22	27	29	29
Aの財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他				
	一般財源	22	27	29	29
	事業投入人件費(B)	0.1人	0.1人	0.1人	0.1人
	フルコスト(A)+(B)	720	720	720	720
		742	747	749	749

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)	
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	○	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業		
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業		
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業		
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業		
市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業			
国や県、民間が同様のサービスを提供している事業			
市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業			
民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業			
受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業			
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業			
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】			
	財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○	
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	○	
	サービス水準や対象を見直す余地がある。		
達成度	当初設定した計画を 100% 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】		
	予算の繰越の有無 無		
	【予算の繰越がある場合、繰越の種類】		
効果性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。		
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。		
	【事業名】		
	受益者負担を求めることができる事業である。		
	全体コストにおける負担構成は適正である。	○	
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。		

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	老人クラブを対象とした出前講座等、他の事業とも併せて実施していく。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 老人クラブやいきいきサロンから出前講座の依頼があったときは、健康相談も同時に開催した。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	中村 崇
事業の方向性	【方向性】 現状維持 【理由】 住民が健康に関する知識をもち、自己管理できるよう健康教育事業と併せながら事業を継続して実施していく。
現時点における課題、その他	健康相談の実施や相談の場があることを市民に周知する。
課題、その他に対する改善策	出前講座など他の事業と同時に行い、相談しやすいように実施する。
(いつまでに、何を、どうする)	